

## 事後評価シート

調査研究課題名	LCC の参入効果分析に関する調査研究
担当者	研究調整官 小澤康彦、研究官 渡辺伸之介
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、LCC 参入が国内航空市場にもたらしたインパクトについて把握するため、統計データ、アンケート等に基づいた定量分析を実施するとともに、LCC による航空サービス拡充のケーススタディとして国内外の空港、自治体の取り組みについて調査を実施し、今後国土交通省の政策部局及び地方自治体が LCC の参入を政策的に推進する必要性の検討に資する情報を提供することを目的して実施したものである。</p> <p>調査研究の成果として、LCC の参入による航空運賃の変化、航空旅客数の変化などを路線別に分析したことや、ロジットモデルで航空企業・経路選択モデルを構築し、国内 LCC 参入区間の利用者便益を推計したこと、また LCC に関連した航空サービスの拡充に関する国内外の地方空港についての事例（現状や課題）を収集・整理できたことで当初の目標を達成できたものと考えられる。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、国内航空市場に参入した LCC についてロジットモデルで航空企業・経路選択モデルを構築し LCC 参入路線の旅客全体が享受する利用者便益を算出した。また、LCC の利用意向や他交通機関との競合状況等について把握のためインターネットアンケート調査を実施した。更には LCC を含む航空サービス拡充に関し国内外の空港、地域（自治体・観光局）、航空会社にヒアリングを実施した。</p> <p>本調査研究の成果は、国土交通省の政策部局、地方空港関係者が LCC 参入を政策的に推進する必要性の検討にあたり有効な情報を提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程で随時有識者ヒアリングを実施しご助言をいただいた。有識者は、航空の経済学や、空港整備・維持管理、財源等に知見を有しており、航空局の交通政策審議会航空分科会基本政策部会の委員でもある日本大学 経済学部 加藤一誠 教授に就任いただき、様々な角度からご意見をいただいた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表することを予定している。また、本調査研究の結果が、今後の我が国の空港、自治体関係者の戦略立案の参考資料として活用されることを通じて、地方空港路線のネットワーク拡充に資することが期待される。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容を PRI Review 50 号、52 号に掲載するとともに、当研究所が主催した平成 26 年度研究発表会や LCC シンポジウムにおいても、成果の一部について報告を行っている。</p>